

講演者：倉持隆氏（慶應義塾大学三田メディアセンター貴重書室兼選書担当）

テーマ：大学図書館におけるアーカイブスの必要性：宗家文書を中心に

1. 大学におけるアーカイブス

- ・ 研究を支援することが、目的である。
大学史編纂、大学史に関する資料の管理・保存・公開が大学に関するアーカイブス。
古文書等の歴史資料の管理・保存・公開は歴史資料保存利用機関としての役割。
- ・ と の 2 つの機能がある。

2. 古文書の保管について（上記 1- に関して）

- ・ 文書館・史料館などの機関だけでなく、博物館・図書館にも多くの古文書が所蔵されている。
- ・ 都道府県立図書館・大学図書館では、原資料を収集し、一括して管理しようとした時期があった。
- ・ 近年は現地で保管し、収集の際はマイクロフィルムの複製の形で、収集し、利用に供している。

3. 慶應義塾図書館所蔵の古文書

ある家に伝来した文書

一般には名の知られていない家も含まれる。

個人が収集した文書

個人の興味・関心に添って収集されたコレクション

- ・ のほうが一般的である。

4. 対馬宗家文書について

- ・ 対馬宗家に伝わった古文書で全国の大名家文書の中でもトップクラスの点数が残っている。
- ・ 対馬宗家が行っていた朝鮮国との外交・貿易に関する記録が含まれる国際色豊かな文書である。

5. 古文書の整理・目録化作業

- ・ 各文書 1 点にカード採録、分類分け、データの整備等を経て目録化。
- ・ パソコンに入力して検索システムで探せるような形が理想である。

6. 和漢書・洋書と古文書の違い

- ・ 古文書は基本的に原本はひとつしかない。
- ・ 目録の統一性の違い。古文書には全国統一的な基準があるわけではない。

7. 宗家文書雑集の整理・目録化作業

- ・ 雑集となっていて目録化作業がむずかしい。文書のまとまりごとに文書の表題を記した一覧表を同封する。

8. 古文書の公開・利用（日本史研究と史料収集）

- ・ 古文書は日本史研究の為の一級史料なので、いかに良い古文書をさがすかで研究が

決まるともいえる。

- ・ 問い合わせを受けた時のために所蔵の確認をしておく必要がある。
- ・ 公開のために目録整備は必要であり、公開は一部の人だけでなく公平性を保たなければならない。

9. 大学図書館におけるアーカイブスの必要性

- ・ 歴史資料保存利用機関としての使命を果たすため、長期的な展望を持って、古文書を整理して公開活用していく事が、研究支援につながる。
- ・ 教育支援の面では、原本に接する機会を設けるという意味で古文書を生かすことができる。

10. おわりに

- ・ 古文書の公開は、研究を活性化させ、大学内にとどまらない研究の深化に寄与する事につながる。
- ・ 専門分野の学部・専攻等との連携が重要となる。
- ・ 公開することにより劣化する事もあり得るので、保存とのバランスが問題。